

(\ )平成18年3月、修徳自治連合会修徳まちづくり委員会によって、「修徳学区まちづくり憲章 第一部 まちづくりの指針」がまとめられました。

平成19年には、「きれいなまちを崩す」要因を探すワークショップが、京都府建築士会、京都大学門内研究室の協力を得て4回連続で開催され、「修徳景観づくり協議会」の設置や「まちなみ文化財」の取り組みを盛り込んだ「まちづくり憲章第二部 まちなみ編」が平成22年に合意されました。



一方、芹橋では、辻番所・足軽屋敷の保存が確定すると、住民主体の運営のために「彦根辻番所の会」が平成20年に組織され、「芹橋サロン」が毎月1回開催されました。これにより芹橋の歴史や人材を掘り起こすとともに、未公開の足軽屋敷が徐々に公開されていきました。



また、細い路地の価値や地区の防災対策の見直しが年1回の彦根景観シンポジウムで検討され、自治会による防災マップづくりも始まりました。

### コーディネータの力

これらは、ともに地域の問題に目を向け、その本質を見極めて、解決のための資源や方法を探し、行

政や専門家の力を導入して、新しい視点でまちづくりをめざす展開です。

異なるのは、修徳では、住民が共通認識を持てるように相当な努力が払われている点です。西田さんによると、修徳のまちづくり推進の秘訣は、勉強会、アンケート、ワークショップを積み上げて共通認識を作り上げたこと、すべての情報を文章にして蓄積し、議論に活用するとともに、「まちづくり通信」で学区民に配布し、ワークショップに参加した住民も参加しなかった住民も共通認識をもてるようにしたことにあります。また、「まちづくり憲章 第一部、第二部」という形でわかりやすく冊子にし、配布しています。



芹橋でも、情報を伝える努力はされていますが、この作業量は大きな負担であり、西田さん達だからこそできたとも思える側面です。

その意味で、京都市が森川さんのようなコーディネータや事務スタッフを地域に派遣し、自治会を後押ししている力は大きいと思えました。(終)

(文責：堀部 栄次)



## NPO法人・彦根景観フォーラム 入会のご案内

彦根景観フォーラムは、まちづくりを楽しむNPOです。大学教員、建築家、市民、商店主、公務員などが集まり、知恵と力を合わせて活動しています。詳しくは事務局まで。

● **ブログ** <http://hikone-keikan.seesaa.net/>

● **定例会** 毎月第3金曜日 午後7時～9時 ひこね街の駅「戦国丸」 誰でも自由に参加できます。

● **お問合せ**：彦根景観フォーラム事務局 TEL 080-1416-5968 FAX 0749-27-1431

E-mail: [hikonekeikan@hotmail.com](mailto:hikonekeikan@hotmail.com) まで



# きらっと彦根 vol. 39

彦根の魅力 ★ 再発見

彦根まちづくり誌 2015年1月20日 通巻39号 編集/発行 NPO法人 彦根景観フォーラム

## 彦根発・通信舎スタジオ&カフェ



彦根市花しょうぶ通り商店街にある「通信舎」は、江戸後期の木造民家を、昭和9年洋風に改装し郵便局舎として使われ、平成23年国登録有形文化財に認定された建物です。現在は、コミュニティカフェ、デジタルアーカイブ、インターネットラジオ放送局として利用されています。

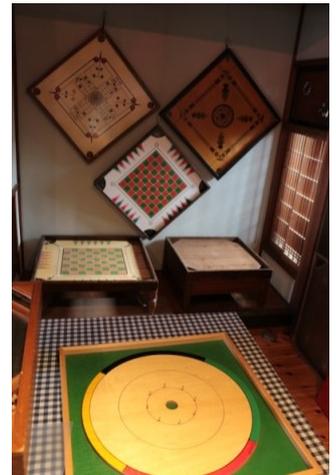
11月30日(日)は、通信舎2階の放送スタジオに、「DADA ラジオ」、「歴箱-REKIBAKO-」、「ROCK BOTTOM」、「通信まちナビ」、「びひこなまっ!」のラジオ番組パーソナリティーたちが勢ぞろいし、「この一年、どんな目標に向かって走り、残り一か月をどう締めくくりたいか」をテーマに生放送。素人とは思えないほど盛り上がったトークでした。

スタジオ見学は自由。放送は、毎週日曜日 14時-16時に、<http://www.fm-gig.net/radio.html>で配信されます。



ところで、このスタジオ、放送ブース(?)以外にも、なつかしい映画のポスターやキネマ旬報のバックナンバー、さらには超こだわりのグッズが収集・展示されています。

中でも珍しいのが、今年9月に発表された「昭和天皇実録」で天皇が少年期に遊んだとされる「クロックノール」。宮内庁が、謎の遊びとして情報提供をよびかけていた実物が、カラムの様々な盤の前に展示されています。これは、盤上の同心円の中央に多くの駒を集めた方が勝ちというカーリングに似たゲームです。



1階は、テイシン・カフェ。この日は、「いしだみつにゃん」がファンに囲まれて、お茶を楽しんでいました。ここで、滋賀大学+通信舎デジタルアーカイブ部が現在開発中のものが「賢治のカレー」。大正11年に誕生した彦根初の西洋料理店「金亀食堂」。店主は谷澤賢治さん。そのレシピを復刻したシトロカレーで、近江牛入りです。



特集 彦根景観シンポジウム2014 一京都・修徳学区のまちづくりに学ぶ一

「文化遺産を活かして住み続けられるまちへ」